

# 仮性包茎手術を正当化する言説の 1970-90年代における変容

——「医療化された男らしさ」概念を手がかりとして——

澁谷 知美

## Abstract

This study seeks to answer the question: “How did the discourse that promoted plastic surgery for pseudophimosis among young men transform from the 1970s to the 1990s?” In order to answer this question, we examined the following hypothesis: With the passage of time, variations of the discourse increased. One variation was the “women’s opinion,” a discourse that promoted plastic surgery of pseudophimosis through explaining that pseudophimosis might cause a bad genital smell, premature ejaculation, uterine cancer, and so on as significant concerns of women. Such discourse made young boys believe that boys with pseudophimosis could never get girlfriends, though there was no evidence that all Japanese young women disliked pseudophimosis. Therefore, this “women’s opinion” was fictitious. To examine this working hypothesis, we collected 114 sample articles concerning plastic surgery to eliminate pseudophimosis, from magazines for young men published from the 1970s to the 1990s. As a consequence of examining the working hypothesis, “With the passage of time, variations of the discourse that justifies plastic surgery for pseudophimosis increased” was denied. Almost all variations of discourse had already appeared by the early 1970s, and no significant historical transformation was recognized from the 1970s to the 1990s. However, a new variation of discourse was recognized, not inside but outside the discourse that justifies plastic surgery; that is, a discourse that denied plastic surgery and de-problematized pseudophimosis appeared. That one variations was the “women’s opinion” was affirmed. Many articles that promoted plastic surgery to eliminate pseudophimosis at “women’s insistence” were identified in the sample. However, whether all women truly dislike pseudophimosis or not remained undemonstrated. Based on these results, we concluded that mimicry of women

was adopted by men to promote this surgery among men, and the same strategy might be used when men reproduce masculine culture.

## 1 問題

### 1-1 問題関心と着目点

本稿の目的は、「1970年代から1990年代にかけて、仮性包茎手術を正当化する青年向けの言説はどのように変容したか」という問いに答えることである。

2016年6月、国民生活センターは「美容医療サービスにみる包茎手術の問題点」という報告書を発表し、包茎手術をめぐる消費者トラブルが絶えないことを指摘した。過去5年間の契約当事者が男性のケース2,131件のうち、約半数である1,092件が包茎手術にかんするものだった。報告書は、心づもりをしていた費用を大幅に上回る金額を請求される料金トラブルのほか、手術が身体におよぼす危害の深刻さも伝えている。「手術後の痛みがひどい、機能障害など後遺症が生じた」という相談もみられるほか、学術雑誌には、包茎手術を受けた後、縫合不全で尿道欠損し、尿道再建した症例も紹介されている」という（国民生活センター2016：1）。

年間でいったい何人の男性たちが包茎手術を受けているのか。それを示す統計は存在しないものの、トラブルの報告があった件数の何倍もの数の手術が行われていると考えても大過ないだろう。人類学者でジェンダー研究者のローラ・ミラーは、日本をフィールドワークして「若い男性の間で包茎手術が人気になっている現状は、これを専門分野とする新クリニックの開業数を見れば明らかである」と指摘している（Miller, 2004=2010：114）。

なぜ、男性たちは仮性包茎を手術しようとするのだろうか。仮性包茎は、手術で保険適用がなされず、医学的には「病気」とはされない症状である。それにもかかわらず美容整形外科で男性たちが手術を受けようとするのは、男性たちをそのように促す「言説」が存在するからであると推察される。これをふまえ、「仮性包茎手術を正当化する青年向けの言説はどのようなものか」を本研究が取り組みたい問いの初発の形態とする。

さらに、この初発の問いの対象をより具体化し、時間軸を意識したうえで「1970年代から1990年代にかけて、仮性包茎手術を正当化する青年向けの言説はどのように変容したか」を本研究で取り組む問いとする。このような形態に再定式化した理由を以下に述べる。

まず、「青年向け言説」に着目した理由はなにか。上記の国民生活センターの報告において、もっとも多いのが20歳代の青年からの相談であるためだ。包茎手術をめぐる相談1,092件のうち約6割にあたる646件の相談が20歳代から寄せられている。青年期に出合う言説によって、おそらく男性たちは仮性包茎手術に向かわされる。それゆえ、「青年向け言説」に着目する。

これを受け、対象とする時代を「1970年代から1990年代」とする。1970年代から80年代にかけて、『週刊プレイボーイ』、『平凡パンチ』といった青年誌が人気を博し、『ポパイ』、『ホットドッグ・プレス』も加わって、青年誌文化が爛熟を迎える。そして1990年代は、青年が接する主たる情報源が雑誌からインターネットにとって代われ、雑誌文化が終息していく。この青年誌文化の爛熟から終息に至る期間のなかで、仮性包茎をすすめる言説がいかなる変容を見せたのかを分析する。

このような問いの立て方には批判もあるかもしれない。「国民生活センターの報告は2012～16年のものである。1970～1990年代と時間的なズレがだいぶある。現状を知るのに適した問いとはいえない」と。たしかにその指摘は当たっている一面がある。如上の国民生活センターの報告によれば、「心づもりしていた費用の根拠」として挙げられている上位3位は「ネット広告」、「医療機関のホームページ」、「ネット情報」であり、64件中インターネット関連が58件もの多きを占める。昔の雑誌言説を分析しても、ネット情報が影響を与える現状の解明には役立たないという批判は妥当性がある。

しかしながら、現代のネット上の包茎言説を概観する限り、1970年代から1990年代の雑誌文化ではぐくまれたそれと、内容的にほとんど変わらない。したがって、今日ネット上に展開する包茎言説のルーツは1970-90年代の雑誌文化にあると見なし、現代のネット言説の前史として過去の雑誌言説を分析する。

この問いに取り組む理由は何か。基本的に澁谷(2017)と同じである。第一に、実践レベルでの効果が期待できるためである。史的言説分析によって仮性包茎手術をすすめる言説の根拠のなさ、あやふやさを明らかにすることで、言説を相対化し、手術の「不要性」をあぶりだすことができる。これにより、不要な包茎手術をしようとする人や、不幸な消費者問題や医療過誤が減るかもしれない。仮性包茎の男性がいたずらに悩むこともなくなるだろう。

第二に、象徴レベルでの効果が期待できる。包茎手術やその広告は、性的パワーに満ちた男性のイメージをふりまき、男性が女性を支配することを重視する「覇権的な男らしさ」の価値観を再生産するものである。仮性包茎手術をすすめる言説（その多くが包茎クリニックとのタイアップ記事=広告である）を相対化することにより、上記のような価値観が弱体化するかもしれない。「男らしい」セックスができずに悩む男性や、「男らしい」セックスによって迷惑を被っている女性のQOLの向上につながる。

第三に、学術的には、女性にくらべてまだ研究が進んでいない「男性の身体史」研究や、「男性身体の医療化」研究に新たな一項目を付け加えることが期待される（澁谷2017:61-2）。

次に、仮性包茎手術という対象をどう捉えるか、これをめぐる言説のどこに着目するかを説明する。

第一に、本研究では、仮性包茎手術を「医療化された男らしさ medicalized masculinities」

を実現する医療技術とみなす。「医療化された男らしさ」とは何だろうか。この概念をタイトルに冠するローゼンフェルドとフェアクロスの編書において、同概念は確固とした定義を与えられていない (Rosenfeld & Faircloth 2006)。しかしながら、「身体イメージは言説によって構築される」という社会構築主義の前提を多かれ少なかれふまつつ展開する本書の収録論文——たとえば、バイアグラを利用する男性へのインタビューをつうじて「医療化された男らしさ」が規範化しつつあることを指摘する論文 (Loe 2006)、男性のハゲ<sup>1)</sup>の対処法が内科医によってしだいに医療化されてゆくさまを医学論文の言説分析をつうじて描いた論文 (Szymczak & Conrad 2006) ——の知見をふまえると、「医療技術によって構築された男らしさ」という定義が浮かび上がってくる。

「医療化された男らしさ」概念は、男性心理研究をレビューした論文のなかでバンデロとボッソンが用いた「不安定な男らしさ precarious manhood」概念を経由するとより理解がしやすいと思われる。バンデロとボッソンによれば、「男らしさ」とは達成が困難で、なおかつ内実がない社会的ポジションであるために、男性は女性以上に自己のジェンダー役割に気をもむ。「男らしさ」が脅かされたと感じると、男性たちは、「攻撃」や「金銭的リスクを冒す行為」といった「男」に典型的な、危険かつ反社会的な行いに出る (Vandello & Bosson 2013: 101,105)。つまり、「不安定な男らしさ」概念が示すのは、「男らしさ」の虚構性であり、被捏造性である。その空っぽの器に「中身」を与えるツールとして、攻撃や、金銭的にリスクな行為が位置づけられている。

空の器に「中身」を与えるツールをバイアグラやハゲ治療薬に置き換えたのが「医療化された男らしさ」概念であると解釈しても、おそらく間違いではない。空っぽの「男らしさ」、つまり、衰退したはずの勃起能力（「男らしさ」の象徴）を再生するのはバイアグラであり、なくなったはずの髪の毛（若さや活力の象徴であり、その連想から「男らしさ」に結びつけられる<sup>2)</sup>）を生えさせるのはハゲ治療薬である。「医療化された男らしさ」概念においては、空虚な「男らしさ」に「中身」を与えるのは医療技術である。このような認識のもと、本研究では「医療化された男らしさ」を「医療技術によって構築された男らしさ」と定義しておく。

「医療化された男らしさ」は、仮性包茎手術を解釈するのに最適な概念といえる。仮性包茎手術をすすめる雑誌記事や広告は、手術を受ければ「女性にモテる」、「早漏がなおる」、「陰茎のサイズが増大する」と謳う。異性を惹きつける魅力、性的能力、大きなペニスを「男らしさ」の具現と解釈すれば、執刀によってそれを付与すると主張するのが仮性包茎手術ということになる。つまり、仮性包茎手術を、バイアグラやハゲ治療薬にならぶ医療技術として位置づけ、「医療化された男らしさ」を達成するためのツールとして解釈することが可能である。

第二に、仮性包茎手術をめぐる言説のどこに着目するか。言説を分析していくなかでも、



ョンとしての女性の目〉それ自体が男性間の相互行為を引き起こすこともあると推察している。ハゲた男性が、女性に直接からかわれた経験がないにもかかわらず「ハゲが恥ずかしい」という。あるいは女性がいる場に出ていくのが「億劫だ」という。「しかしじつはハゲていることの劣等感、女性からの働きかけによって生まれたり維持されたりしているのではない。それは男性同士のからかいややりとりの中でつねに維持され更新され続けているのである」(須長1999:143-4)。

仮性包茎手術を正当化する言説においても、〈フィクションとしての女性の目〉に該当するであろうものはすぐに見つかる。「包茎は女性に嫌われる」、「早漏で短小だから女性を満足させられない」、「恥垢がたまってクサくて不潔だから女性が嫌がる」等々。これらの言説が惹句となって顧客(すくなくともこの人たちの身体的性別は男性である)が包茎クリニック(ほぼ男性が取り仕切っていると考えられる)を訪れることをふまえれば、これらの言説は「男性間の相互行為を引き起こす」といえ、〈フィクションとしての女性の目〉の特徴を有していることになる。

包茎言説においては、〈フィクションとしての女性の目〉を体現する言説はいつごろ登場し、どのていどの広がりを持っているのだろうか。そして、包茎言説における〈フィクションとしての女性の目〉はハゲ言説におけるそれと機能的にまったく等価なのか。こうした点に着目しつつ、分析を進める。

## 1-2 作業仮説

上に説明した着目点をふまえつつ、本研究では「1970年代から1990年代にかけて、仮性包茎手術を正当化する青年向けの言説はどのように変容したか」を検討する。具体的には、次の作業仮説を検証したい。

**作業仮説** 時代が下るにつれ、仮性包茎手術を正当化する言説のバリエーションが増える。そのバリエーションの中には、〈フィクションとしての女性の目〉を体現するものが存在する。

この作業仮説を導出した背景を説明する。澁谷は『日本の童貞』において、1970年代から存在感を増してきた「童貞は恥ずかしい」という言説が、1980年代になって量的に増大したうえ、語り方のバリエーションも豊富になってゆく過程を描いた。バリエーションの一つには、語り手を女性とした「童貞は見てわかる」という言い方もある。そうした予見が当たっていたか外れていたかを確認したとは一言もいっていないにもかかわらず、何が何でも「わかる」のだと誌面のなかの〈女性〉たちは主張し、記事も彼女たちの主張を検証することなくそのまま読者に伝えている。いわば根拠が問われない〈女性〉の「ご託宣」であり、

その意味で〈フィクションとしての女性の目〉であるということが出来る（澁谷 2003=2015: 220-2）。

貞言説の爛熟は青年誌が牽引した。青年誌に掲載された仮性包茎手術を肯定する言説も、同様の経緯をたどっていないだろうか。はじめはシンプルに包茎のデメリットと手術の効用を述べていたが、そのうち女性が登場し、彼女たちに「包茎は嫌い」と語らせる。そのような途をたどっているのではないだろうか。こうした予想のもと、如上の作業仮説を設定した。以下では、この作業仮説の是非を検討する。

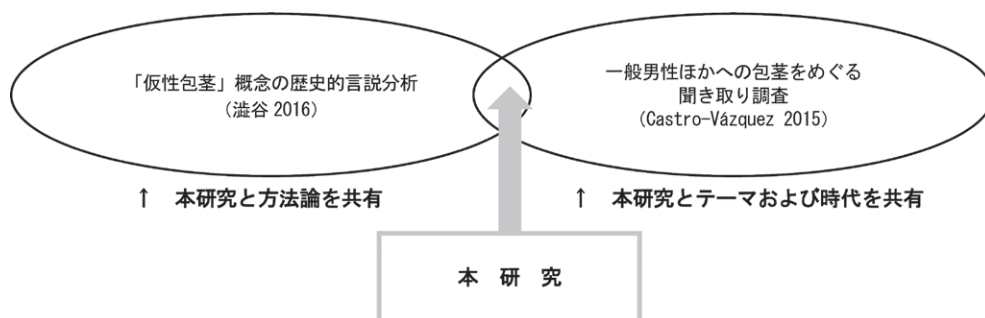
### 1-3 先行研究

仮性包茎をめぐる言説分析の先行研究として「戦前期日本の医学界で仮性包茎カテゴリーは使われていたか——1890-1940年代の実態調査の言説分析」（澁谷 2016）が挙げられる。仮性包茎を対象とした美容整形手術は戦後に大々的に広まったという事実にもとづき、「とすれば、「仮性包茎」という概念そのものが戦後になって“捏造”されたものであり、戦前期には存在しなかったのではないか」という仮説を立てている。検討の結果、仮説は否定された。戦前期の医学界においても「仮性包茎」という概念は存在しており、それを恥じる男性たちの心性も確認された。

本研究は、「仮性包茎」という対象と、言説分析という方法論をこの研究と共有する。ただし対象とする時代は、先行研究は1890-1940年代であるのに対し、本研究は1970-90年代である。先行研究は医学界における実態調査（1890-1940年代には、徴兵検査などの機会に包茎の割合を調べる調査がしばしば行われた）を資料としているのに対し、本研究は一般読者が読む青年雑誌の記事を資料とする。

本研究とテーマおよび時代を共有するのは、シンガポールの社会学者カストロ＝バスケスによる *Male Circumcision in Japan* である。日本人の男女に包茎のイメージや手術の経験についてインタビューし、非包茎であることが男性のアイデンティティを構成する重要な要素となっていることを指摘した（Castro-Vázquez 2015: Conclusion, Patriarchy and the Male Body, para. 2）。本研究は、そうした男性のアイデンティティ形成に影響を与える「非包茎＝男らしい」というイメージがいかにして生成されたのかを史的言説分析のアプローチによって明らかにするものである。

図2 先行研究と本研究との関係



## 2 方法

本稿で採用する方法は言説分析である。閲覧した主な資料について説明する。今回の調査に用いた記事は全部で114件で、表1のとおり。『ポパイ』、『ホットドッグ・プレス』は創刊号（前者は1976年、後者は1979年創刊）から1999年までに刊行された号を逐一チェックし、包茎にかんする記事（仮性包茎手術を正当化する記事のみならず、包茎について語っている記事はすべて）を拾い出した。ほかの雑誌については大宅壮一文庫目録およびデータベースにて「包茎」「性器改造」で検索し、拾い出した。10頁以上にわたる大きな特集のなかで離れた頁に包茎記事が複数ある場合、1件とは数えず、2件あれば2件として数えた。これ以外の雑誌の包茎記事も適宜用いる。

中高年向けの雑誌（『週刊ポスト』、『週刊大衆』、『週刊現代』、『アサヒ芸能』、『週刊宝石』ほか）の記事は今回の調査対象から外した。これも入れると、記事の件数は表に示したものの2倍以上になる。青年誌以上に、いわゆる「オジサン雑誌」で包茎手術のプロモーションが盛んになされているということである。

現代において男性に大きな影響力を与えているのは雑誌よりもインターネット上の包茎情報である。しかし、インターネット言説は扱わなかった。1999年時点でのインターネットの世帯普及率は約19%であり（総務省2000:5）、今日ほどの影響力はなかったと考えられる。1999年までの状況を知るにさいして、ネット上の言説を扱わなかったとしても、さほどの外れの結論を導くことにはならないだろう。

## 3 結果

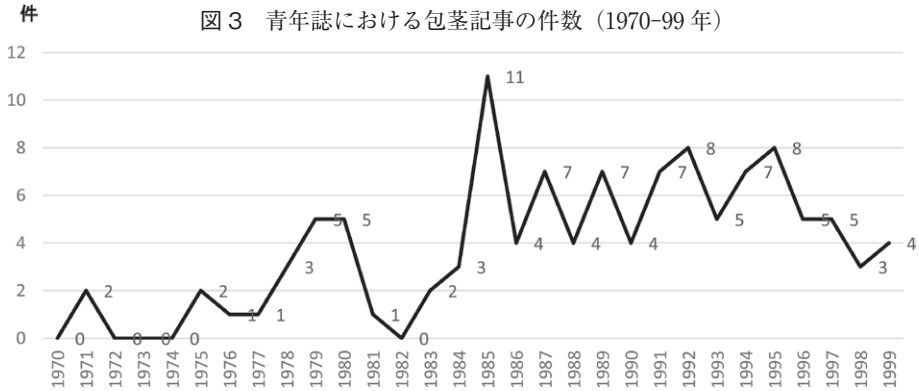
### 3-1 包茎記事の内容と数量的な傾向

本題に入る前に、調査対象となった言説の全体像を概観しておく。

今回の調査で扱った青年誌における包茎記事の件数のピークは1985年で11件。その後、



年間4～8件の間で推移するが、90年代の終わりには減少のきざしが見える。



語られている内容は表1のとおりであるが、その内容にふれる前に、前提となる事実関係について説明しておく。仮性包茎を対象とした美容整形外科による手術がメジャーになった時期についてである。それは1980年ごろのことだと、美容整形外科医の高須克弥が証言している。

僕が包茎ビジネスをはじめるとまでは日本人は包茎に興味がなかった。僕、ドイツに留学してたこともあってユダヤ人の友人が多いんだけど、みんな割礼しているのね。ユダヤ教徒もキリスト教徒も。ってことは、日本人は割礼してないわけだから、日本人口の半分、5千万人が割礼すれば、これはビッグマーケットになると思ってね。雑誌の記事で女の口に「包茎の男って不潔で早くてダサイ!」「包茎治さなきゃ、私たちは相手にしないよ!」って言わせて土壤を作ったんですよ。昭和55年当時、手術代金が15万円だね。〔中略〕まるで「義務教育を受けてなければ国民ではない」みたいなね。そういった常識を捏造できたのも幸せだなあって（笑）（鈴木・高須2007:81-2）

高須が包茎手術ビジネスを開始したのは「昭和55年当時」であり、それまでは「日本人は包茎に興味がなかった」という証言である。高須クリニックは、今回の調査対象となった記事（手術をすすめる記事の多くは、記事に見せかけた広告＝タイアップ記事である）にも頻繁に登場しており、包茎手術ビジネスを1980年代に成功させた医院のひとつであることは疑いようがない。しかしながら、「日本人は包茎に興味がなかった」というのは言い過ぎであろう。包茎にかんする実態調査は1890年代から1940年代の間にすくなくとも22件行われている（澁谷2017）。包茎にたいする興味のないところに調査が行われるはずはなく、「包茎人は包茎に興味がなかった」という言葉は眉に唾をつけて聞く必要がある。

また、美容整形の一種としての仮性包茎手術を手掛ける医院も、すくなくとも1960年代には存在していた。男性器整形で名をなした医師の野方重任は、1968年に刊行された著書のなかで「最近の整形医の一部」を批判している。彼らは、「包茎手術」によって「早漏」

も「陰萎」も「発育不全」も「精力減退」も「何もかもがこれで治るかのよう」に言って、手術の要のない仮性包茎中等度以下の人たちまでも、混乱させている」という（野方1968：211）。今日の包茎クリニックと同じ宣伝文句を「整形医の一部」が1968年には採用していたことがわかるうえ、宣伝を受けて「混乱」するていどには「包茎への興味」を日本人男性が有していたことを裏書する記述である。

したがって、高須の証言は、1980年以降、包茎手術ビジネスが以前にくらべて飛躍的に拡大した、という限定的な意味として受け取る必要があり、そのかぎりにおいては誤りがないと思われる。この証言を裏づけるかのように、図3における記事数も、1980年代以降、増加している。

語られている内容は表1のとおりである。表に略記されている各項目がどのような言説を指すのか、各項目の1970年代から90年代までの数量的な傾向はどのようなものだったかを以下に説明する。

「記事種別」……「クリニックの紹介」は文字どおり仮性包茎手術をおこなう医院の紹介であり、これが入っている記事はタイアップ広告とみなすことができる。「レクチャー」は包茎のデメリット（メリットを語る記事はきわめて例外的）を解説する内容である。そのほか、包茎であることの悩み相談である「相談」、包茎をテーマにした創作である「物語」、包茎をめぐるさまざまな工夫ほかの実体験が語られる「体験談」、「ハウツー」などがある。「女性の意見」はシンプルに包茎にたいする女性の意見だけが紹介されている。

「同性の目」……包茎だと同性からバカにされる、同性の目が気になるなどの言説である。事例を挙げれば、以下のようなものである。

それからこの季節〔冬〕。仲間内で温泉旅行なんてのも多いはず。女のコ以上に野郎同士のほうが、他人のチンポを気にしてるハズなのだ。脱衣室でこっそりムイでも絶対誰かに見られているはず。こういうパターンから数年間の学生生活を棒に振ってしまった話なんかクサるほどあるのだ。……男友達にバレたら一生笑いのネタにされるゾ（『スコラ』1996年2月22日，p.131）

「同性の目」を気にせよと読者に迫る言説は、しかしながら、1995年以降の『スコラ』に掲載されているのみであり、あまり語られていない。この頃の『スコラ』の包茎記事は、違う号に掲載された記事であっても、構成がたいへん似通っている。つまり、「包茎のデメリット」を語るパート、「同性からバカにされるエピソードを語るパート」、というふうに、どこにどんな言説を配置するのがあらかじめ決まっておき、そのフォーマットに微妙に異なる文言やエピソードをあてはめて書かれたものと推定される。その時々々の記者の判断で「同性の目」についてのエピソードが挿入されたというよりも、最初に書かれた記事にたまたま「同性の目」エピソードがあったために、以後ルーティーンとして継続したと考えたほうが

表 1

No.	記事タイトル	雑誌	発行年月日	記事種別	同性の目	女性の存在			男性の健康		男性のOOL			包茎増し/多い/多い	悩まなくて/無理に手術しなくてよ
						女の子に嫌われる/手相	女子学生/女性に性的悩みに悩まされる	子宮ガン/女性に性病/伝染など	勃起/不射精/早洩/美	陰茎が腫れ/痛	短小/形状異常になる	早漏/インポ等になる	コンプレックスになる		
1	シリーズ若い性のカウセンリング日記 ポキは包茎なんです どうな手術をしたらいいでしょうか?	明星	1971年01月	対抗言説									×33才で15%	○	
2	実験ルポ 包茎の手術はたった10分で終わった! キミの悩みをパーソナルで解決しよう!!	平凡パンチ	1971年02月08日	ルポ、クリニックの紹介								○			
3	医学特別セミナー (包茎くん、サヨーナラ! キミの悩みをパーソナルで解決しよう!!)	週刊プレイボーイ	1975年07月01日	レクチャー		○	○	○	○						
4	ヤング最大の悩み いまこそスタートアップの【皮書】をポキに譲らねば! “包茎くんのライフ・アップ” SEXUALクリニック	週刊プレイボーイ	1975年10月14日	レクチャー		○	○	○	○				31才以上で41%	○	
5	春だ、飛びだせ! 包茎くんのための完全治療・カルテ	週刊プレイボーイ	1976年04月20日	レクチャー、クリニックの紹介		○	○	○	○						
6	ヤングセクソロジュー カンテン包茎とは何…?	週刊プレイボーイ	1977年06月14日	相談											
7	PBセクシュアル・ストリート ホウケイ問答	週刊プレイボーイ	1978年01月17・24日合併	雑語		○									
8	本誌恒例 童貞・三人苦… 包茎・オナニー・短小…Q&A	平凡パンチ	1978年02月13日					×洗え							
9	実験公開 若い性と愛の痛み/カウセンリング・ルーム488 包茎と短小の悩みをどう脱する	週刊明星	1978年07月23日	相談		○									
10	ヤングSEXの共通2次モメンダイを完全テスト 短小・包茎・早漏…キミが、ちばん悩む青春の大テーマ	週刊プレイボーイ	1979年02月20日	レクチャー											
11	ピンクREPORT 79 ホウケイ改造具に体験チャレンジ! ※ベニバン	週刊プレイボーイ	1979年03月27日	体験談			○								
12	ヤングセクソロジュー 包茎を直したいが	週刊プレイボーイ	1979年07月03日	相談					○						
13	ヤングセクソロジュー 亀頭がもげると?	週刊プレイボーイ	1979年09月25日	相談				○	○						
14	ヤングセクソロジュー 亀頭を露出して大丈夫か?	週刊プレイボーイ	1979年10月23日	相談					○						
15	THEピンクペンピンク 早大君のホウケイ手術2時間完全記録	週刊プレイボーイ	1980年01月29日	ルポ											
16	THEピンクペンピンク 包茎手術の早大君が体験した術後1カ月の苦汁	週刊プレイボーイ	1980年02月05日	ルポ											
17	THEピンクペンピンク ホウケイ手術ポルはトルコ実験テストで合格したか	週刊プレイボーイ	1980年03月04日	ルポ										○	
18	ヤングセクソロジュー 包茎は治したが早漏のまま……	週刊プレイボーイ	1980年05月27日	相談										×治らず	

仮性包茎手術を正当化する言説の1970-90年代における変容

No.	記事タイトル	雑誌	発行人月日	記事種別	同様の目	女性の存在		男性の健康		男性のQOL			包茎増加/多い	極まなく/無理に手術しなくてよい
						女性の声	女の子に嫁われるの/のために手術	子宮ガン/女性に性感染症など	陰垢/不衛生/臭い	陰茎ガンの他に罹患	短小/形状悪くなる	早漏/インポ等になる		
19	ヤングセクワロジエ 包茎を抜きたい	週刊プレイボーイ	1980年06月03日	相談		○	○		○					
20	PBせつす最前線 漫画家・白木卓さんが提唱する週面テック包茎治療法	週刊プレイボーイ	1981年03月10日	ハウツー										
21	ぼくたちの性の健康管理ノート オナニー きみのオナニーは間違っていないのか? 包茎くんも、このパンサーユで絶えずニョキョキ	ホットドッグ・プレス	1983年01月10日	クリニクの紹介										
22	ADAM VS EVE 包茎ってどういうものなの? どうして包茎だと困るの? / 包茎矯正具 ベニベニのROI効果!	ホットドッグ・プレス	1983年08月10日	相談、グッズの紹介			○	○						
23	アップル世直し男! トクガマスク世界初の完全入院 包茎手術への挑戦! 「私自身も……直す!」	週刊プレイボーイ	1984年01月08日	ルポ		○	○							
24	All About ADAM & EVE SEXI-アナル110番 包茎の手術	ホットドッグ・プレス	1984年01月10日	クリニクの紹介		○	○							
25	Q&A 100 for Q11 ぼくのチンチンは、完へきなまでに夜をかむっています。/ Q18 ああ、僕は仮性包茎なんですけど、仮性包茎でも得することってあるんでしょうか。/ Q100 一人一指、性の悩みが多いボクです。その世界の名医を教えてください。	ホットドッグ・プレス	1984年08月10日	相談、クリニクの紹介		○	○							
26	代理体験企画2 包茎 無痛、無血の10分間で完全癒し!	ホットドッグ・プレス	1985年01月10日	クリニクの紹介		○	○							
27	ボコチン名医 矢島誠夫ドクターのボコチン講座/	ホットドッグ・プレス	1985年01月10日	コラム										○異性でなければ
28	身の下速報 包茎矯正器具の新兵器登場!	ホットドッグ・プレス	1985年01月10日	グッズの紹介										6割
29	赤坂小町の明るく正しく気持ちいいエッチ相談室	ホットドッグ・プレス	1985年03月10日	相談		○	○							
30	赤坂小町の明るく正しく気持ちいいエッチ相談室	ホットドッグ・プレス	1985年06月10日	相談		○	○							
31	赤坂小町の明るく正しく気持ちいいエッチ相談室	ホットドッグ・プレス	1985年07月10日	相談		○	○							○
32	ALL about ADAM & EVE 追跡 一枚のカルテ CASE 包茎手術 包茎手術をしたのはいいが、血が止まらな	ホットドッグ・プレス	1985年07月25日	ルポ										
33	性の悩み110番ルポ キミは03-264-4343を知っていますか?	ホットドッグ・プレス	1985年07月25日	ルポ										
34	性的原因で包茎 短小は包茎が原因だった?	ホットドッグ・プレス	1985年07月25日	レクチャー			○							○言語障害にまで
35	全国版“包茎・性病・妊娠”安心クリニク徹底ガイド	ホットドッグ・プレス	1985年07月25日	クリニクの紹介										○
36	これだけは女の口に言えない! とっても恥ずかしい身の下相談6番勝負 包茎	ホットドッグ・プレス	1985年08月25日	相談										○

No.	記事タイトル	雑誌	発行年月日	記事種別	同様の目	女性の存在		男性の健康		男性のQOL			包茎増加/多い	悩まなく/無理に手術しないでよ
						女性の声	女の子に嫁われる/手術	子ガキ/女性に性癖伝染など	胎垢/不衛生/臭い	陰茎ガク/腫れに罹患	短小/形状悪くなる	早漏/インポ等になる		
37	More About ADAM & EVE Q. 重責を早く捨てたくてワズワズしているのですが、包茎なので上手にできるかどうか心配です。	ホットドッグ・プレス	1986年01月10日	相談		○		○					10人に7人くらい	○
38	Love & Sex Statement '86 1000人面談調査 全国 LOVE & SEX イエローページ 誰に相談すればいいんだらう?	ホットドッグ・プレス	1986年05月25日	クリニックの紹介										
39	ALL about ADAM & EVE チンポコ博士の“博愛”メッセージ がんばれ! 短小・包茎くん(矢島映夫)	ホットドッグ・プレス	1986年08月10日	レクチャー										○
40	短小・包茎・早漏でも大丈夫!! 女の口はオチンチンをUPする『長茎術』	ホットドッグ・プレス	1986年08月10日	クリニックの紹介		○		○						○
41	短小・包茎・早漏でも大丈夫!! 女の口はオチンチンをUPする『長茎術』 どう見てる?	ホットドッグ・プレス	1987年01月10日	女性の意見		○		○						○
42	短小・包茎・早漏でも大丈夫!! 女の口はオチンチンをUPする『長茎術』 どう見てる!!	ホットドッグ・プレス	1987年01月10日	クリニックの紹介										
43	短小・包茎・早漏でも大丈夫!! 女の口はオチンチンをUPする『長茎術』 どう見てる!!	スコラ	1987年07月09日	風俗線の紹介		○							80%	
44	短小・包茎・早漏でも大丈夫!! 女の口はオチンチンをUPする『長茎術』 どう見てる!!	スコラ	1987年07月23日	レクチャー		○								○
45	短小・包茎・早漏でも大丈夫!! 女の口はオチンチンをUPする『長茎術』 どう見てる!!	ホットドッグ・プレス	1987年09月10日	相談			×包茎でないからといってではない					×敏感なのがよい		○
46	短小・包茎・早漏でも大丈夫!! 女の口はオチンチンをUPする『長茎術』 どう見てる!!	ホットドッグ・プレス	1987年09月21日	レクチャー										
47	短小・包茎・早漏でも大丈夫!! 女の口はオチンチンをUPする『長茎術』 どう見てる!!	スコラ	1987年12月10日	レクチャー		×	×	×				×	38% (自分で申告なので多い?)	○
48	短小・包茎・早漏でも大丈夫!! 女の口はオチンチンをUPする『長茎術』 どう見てる!!	スコラ	1988年01月01日	レクチャー			○						包茎の9割が仮性	
49	短小・包茎・早漏でも大丈夫!! 女の口はオチンチンをUPする『長茎術』 どう見てる!!	ポパイ	1988年07月06日	相談										○手術不要
50	短小・包茎・早漏でも大丈夫!! 女の口はオチンチンをUPする『長茎術』 どう見てる!!	スコラ	1988年07月14日	レクチャー				○						
51	短小・包茎・早漏でも大丈夫!! 女の口はオチンチンをUPする『長茎術』 どう見てる!!	スコラ	1988年08月25日	レクチャー、クリニックの宣伝		○								日本人の4割が包茎、増えている
52	短小・包茎・早漏でも大丈夫!! 女の口はオチンチンをUPする『長茎術』 どう見てる!!	週刊プレイボーイ	1989年03月28日	物語										

仮性包茎手術を正当化する言説の1970-90年代における変容

No.	記事タイトル	雑誌	発行年月日	記事種別	同様の目	女性の存在		男性の健康		男性のQOL			包茎増加/多い	極まなく/無理に手術しなくてよい	
						女性の声	女の子に纏わる声の妨げ	子宮ガン/女性に性病伝染など	恥垢/不審な生/臭い	陰茎が女性に罹患	短小/形状異常になる	早漏/インポ等になる			コンプレックスになる
53	これだけは知っておけ！ 誰にも言えない悩みを一発解消！「あなたも危ない、男のSEXトラブル インポ、包茎 早漏はこらすれば治る」	BIG tomorrow	1989年05月	レクチャー										○	
54	誰にも聞けなかったマジメな性的話 ホタたちの「性」が危ない！『性の悩み』処方箋 性の達人が教える初心者心得5 ヘルス嫌・陽子 仮性包茎が当たり前？	ホットドッグ・プレス	1989年06月25日	レクチャー		○									
55	カラダの悩み一発解消アドバイス① 怖れるな！ 自分の体を熟知せよ 変形 包茎にあるできるものは、いずれ消えてなくなる	ホットドッグ・プレス	1989年06月25日	レクチャー		○								○	
56	カラダの悩み一発解消アドバイス② ホーケイは「吉書あつて一利なし！」	ホットドッグ・プレス	1989年06月25日	レクチャー		○								○	
57	僕たちの不安と悩み 俺って普通かな？ “包茎はすぐ直せ”とよく雑誌に書いてるけど、どれ位包茎の人、いるんだろ。	ポパイ	1989年08月02日	レクチャー					○					○	
58	コンプレックスを解消するための大逆転人体改造計画 ※包茎、コラーゲン	スコラ	1989年08月24日	レクチャー、クリニック紹介		○								△	
59	きたろうの他人の悩み ※包茎を利用したオナニー	ホットドッグ・プレス	1990年02月25日	痛み相談		○									
60	男を驚くカラダ改造講座 モテる男に大へんシン ※包茎手術、他	スコラ	1990年03月08日	レクチャー、クリニック紹介		○									
61	マジメに若者の性を考える特集『包茎伝説』のオウ「セックス失格」の伝説に騙されるな！キミの人生をバネ色にっ！	週刊プレイボーイ	1990年09月04日	レクチャー		○	×							○	
62	女のコと仲良くなれるココロとカラダのQ&A Qオナチンが痛い。もしかししたら病気かも……	ホットドッグ・プレス	1990年11月25日	レクチャー					○						
63	20歳の常識 体験編 実践してこそわかるオナチンの世界をコミュニティ学習する SEX	ホットドッグ・プレス	1991年01月25日	レクチャー					○						
64	誰にも聞けない「性」の悩み解決集中講座 包茎	ホットドッグ・プレス	1991年04月10日	レクチャー					○					○25歳まで待つてOK	
65	現代SEX用語の基礎知識 A to Z 短小	ポパイ	1991年04月17日	レクチャー					○真性					○真性以外	
66	スコラSEXメンデナンス講座 手術無用の逆転ハイテクでこの夏スーパーヒーローになる！ コレで、女のコは「ホーケー」をハンデと思わなくなる！	スコラ	1991年07月25日	レクチャー						×					
67	91 Sex Report オナチンチンのことについて教えて下さい！	ホットドッグ・プレス	1991年08月25日	レクチャー		○	○仮性包茎も包茎/×仮性包茎なら許せる							○日本人の7~8割は仮性包茎	

No.	記事タイトル	雑誌	発行年月日	記事種別	同性の目	女性の存在		男性の健康		男性のQOL			包茎増加/多い	極まなく/無理に手術しなくてよい
						女性の声	女の子に奪われるお母の手前	子奪ガン/女性に性病伝染など	恥垢/不審/生/臭い	陰茎が女性に罹患	短小/形状異常になる	早漏/インポ等になる		
68	徹底取材！最新医学アサシメント。包茎手術は本当に必要か！？ ※高須クリニック、新形形成外科、大塚形成外科	スコラ	1991年09月26日	レクチャー、クリニックの紹介、座談会			○	○	○	○	○	○	日本人男性の約6割は包茎	
69	男のカラダ大改造計画 日本の名医11人が、ズバリ答える！ボクらの肉體コンプレックス解消法 包茎・早漏・短小	スコラ	1991年12月12日	レクチャー			○	○	○	○	○	○		
70	HOW TO LOVE HOW TO SEX 女のコと専門家が回答するSEX相談＆データ掲載 カラダ編 Qおちんちんが臭いのは治る？/Q包茎らしい、どうしたらいい？	ホットドッグ・プレス	1992年02月25日	相談			○	○	○	○	○	○		
71	スコラ・メゾイカログライズレポート エイズより身近！？恐怖の包茎に打ち勝て！	スコラ	1992年03月26日	レクチャー、クリニック紹介			○	○	○	○	○	○		
72	GET INTO ECSTASIES! 真実！千差万別 オチンチンの実態	ホットドッグ・プレス	1992年08月25日	レポート			○	○	○	○	○	○	日本人の7~8割は包茎	
73	GET INTO ECSTASIES! オチンチンの極みに答える、Q&A 包茎	ホットドッグ・プレス	1992年08月25日	相談					○					
74	下半身メチナダンス講座 包茎は私たちにまかせなさい！ ナースの座談会、包茎のキーワード、手術は安全か？ ※高須クリニック、新形形成外科、大塚形成外科	スコラ	1992年09月10日	座談会、クリニック紹介			○	○	○	○	○	○	日本人男性の約70%が包茎	
75	AV業界紳士録その1、元気に願うおじさんたち 業界の狂気、清水大塚、政宗小林青年、包茎手術男・木大塚	週刊プレイボーイ	1992年09月15日	インタビュー						×				
76	オチンチン Qオチンチンが臭いんです。	ホットドッグ・プレス	1992年09月25日	相談			○	○	○					
77	試みの地平線 誰にも知られず包茎を治したい！	ホットドッグ・プレス	1992年11月10日	相談										○包茎なら
78	性的問題100 未熟なボクの恥ずかしいギモンにわかりやすく答えてください！ やつりボー・ケイは治した方がイイの？	ホットドッグ・プレス	1993年02月25日	レクチャー										○真性は別
79	性的問題100 過去の汚点・大恥かき体験その2 ムケタアの感嘆を楽しもうとオチンチンし過ぎて、チンポが腫れた……	ホットドッグ・プレス	1993年02月25日	体験談										
80	男のカラダ・メンチナダンス特集 股包茎が、自信メンチナの春を呼ぶ！ひと皮ムケた男になるための下半身改造マニュアル	スコラ	1993年03月25日	座談会、クリニック紹介			○	○	○	○	○	○		
81	セックスの本音、核心にせまる！「ほんとうはこうなんです」Q 包茎は気になりますか？	ポパイ	1993年05月19日	レクチャー			○	○	○	○	○	○	日本人では成人男性の約70%は包茎(包茎も含む)	

仮性包茎手術を正当化する言説の1970-90年代における変容

No.	記事タイトル	雑誌	発行年月日	記事種別	同性の目	女性の存在		男性の健康		男性のQOL			包茎増加/多い	悩まなくて/無理に手術しないでよい
						女性の声	女の子に嫁われる/手術のために	子やカン/女性に性癖伝染など	陰垢/不衛生/臭い	陰茎ガンの他に罹患	短小/形状悪くなる	早洩/インポ等になる		
82	21世紀下半身改革フォーラム 激論! 包茎ムイたらシブワセカイ? 今、まじめに考える「包茎」	スコラ	1993年09月23日	レクチャー、インタビュー、クリニック紹介		○	○	○			○/×包茎を武器にする			
83	ひと皮ムケる旅に出よう! スコラ春の下半身改善運動 包茎ムイたら愛は勝つ!!	スコラ	1994年03月24日	レクチャー、座談会、クリニック紹介		○	○	○				日本人男性の約6割は包茎		
84	明るく楽しく気持ちいい! オナニー歴本 業界異色濃厚文化人に聞いたオナニーはバグあるかし! /バグいさという目的のために、毎日むいた3年間	ホットドッグ・プレス	1994年07月10日	インタビュー、体験談										
85	俗流、ウワサ... 真実はいったい何なのか、包茎ならんでください、オナニーで注意することありますか?	ポパイ	1994年07月25日	相談										
86	困ったカラダ、いらぬカラダ、修理、取り換え方請け負います 男のための形成・整形最新レポート	ホットドッグ・プレス	1994年08月25日	レクチャー		×女性の声の誤り	○							
87	包茎ムイたら人生変わる! キミはこの先の人生と21世紀を成かすためのま生生きるのか?	スコラ	1994年09月22日	レクチャー、座談会、質問、クリニック紹介		○	○	○				日本人男性の約6割以上は包茎		
88	判明!? 男の身体に関する女のコレたちの『大誤解!』 包茎=童貞と思つてた彼女	ホットドッグ・プレス	1994年10月10日	女性の意見		×女性の声の誤り								
89	ボクらの下半身クライシス 緊急脱出機 假包茎は私に全頭まかせなさい! 『整形シンデレラ』でおなじみの赤石先生が、ついに包茎撲滅にのりだした!	スコラ	1994年10月27日	レクチャー							○			
90	森だ! 新しい人生を歩き始める前に 包茎ムイで旅に出よう!	スコラ	1995年03月9日	クリニック紹介	○	×仮性なら気にならない		○				日本人男性の6割以上は包茎		
91	WE ARE TROUBLE BUSTERS HOUKEI! 女達の家でアソコの見せかいたくなったとき、ムケてたやつが多くてビックリ! 仮性には治さなくて大丈夫?	ホットドッグ・プレス	1995年03月25日	相談、クリニック紹介		×仮性なら気にならない	○	○				日本人男性の70~80%が仮性包茎		
92	男たちのつぶやきアヘアヘアアヘア、ホーケイは絶対外でムキます	ホットドッグ・プレス	1995年8月10日	当事者コメント										
93	ポパイ大学'95夏期講座 La.おかしき特別講師の包茎手術講座 サラバ包茎、手術体験記。	ポパイ	1995年8月10日	ルポ										
94	チン振にみるオオの形態変化とタマとの比率考察による明日のチンポ学	ホットドッグ・プレス	1995年08月25日	企画										
95	女のコが考えるカンコいい男性像! (オチンチン)	ホットドッグ・プレス	1995年9月10日	調査		○真性							○真性	



No.	記事タイトル	雑誌	発行年月日	記事種別	同様の目	女性の存在		男性の健康		男性のQOL			包茎増加/多い	悩まなく/無理に手術しないでよ
						女性の声	女の子に嫁われる/手術のため	子やガン/女性に性感染症など	胎児/不妊/流産/異い	陰茎ガン/他腫瘍に罹患	短小/形状異常になる	早漏/インポ等になる		
96	包茎ムイたちこの世は天国！ スコア特選3医院徹底取材 最新包茎治療で地獄の日々とオオサラバだ！ ※高須克弥/岡和樹/伊沢克己	スコア	1995年09月14日	レクチャー、座談会、クリニック紹介		○	○	○						
97	SURVIVEY of BOY'S LIFE SEX キミは包茎ですか？/包茎手術を受けたらどう思う？/包茎の悩みは病院に聞け！	ホットドッグ・プレス	1995年12月25日	調査		○	○	○						
98	包茎ムイたちから書が来る！ 日本に包茎治療、男ムイたちは来い！冬を乗り切りたいなら最新包茎治療でお笑い人生とオオサラバだ！スコア特選3医院徹底取材	スコア	1996年02月22日	レクチャー、座談会、クリニック紹介	○	○	○	○						
99	SEX！に見る男と女 カラダの不思議 包茎	ホットドッグ・プレス	1996年02月25日	レクチャー				○真性						
100	人生で初めてする事 薬勝ガイド 初めての包茎手術	ポパイ	1996年06月25日	レクチャー	○							○		
101	お笑いまで夏を終らせたい！ 発逆風！ムイさん、お返り！冬に勝つ！ 白熱！カラダとココロのガチ まだ間に合う！最新包茎治療でエンディングサマー！	スコア	1996年08月22日	レクチャー、座談会、クリニック紹介	○		○	○						
102	愛のカウンセラーがやさしくお答えします！オチンチンの悩み相談Q&A(山口みずか)	ホットドッグ・プレス	1996年08月25日	相談										
103	遺精が止まらなくても、チロレット1個ももらなくても... 包茎治療が来る！ 男の価値はチンポで決まる！ 最新包茎治療でカラダとオオサラバだ！	スコア	1997年02月27日	レクチャー、座談会、クリニック紹介			○	○						
104	おとあ見沢だ WPBだけが支えてくれた 2回 包茎は美しい！ (三沢知廉)	週刊プレイボーイ	1997年05月13日	コラム										○
105	実はこんなにシビア！ 女のココが好きと嫌いなオチンチン	ホットドッグ・プレス	1997年08月25日	レクチャー			○	○						
106	スコア男のカラダメンテナンス 脱ホーケー ひとムケでメチャモテ宣言！	スコア	1997年08月28日	レクチャー、座談会、クリニック紹介			○	○						
107	ボクたち白書97 キミのオチンチンはムケてる？	ホットドッグ・プレス	1997年08月25日	調査、当事者コメント										
108	包茎ムイたち不況に勝てる！ 平成大不況だったけど... 要は自信だ、自分を褒げ！ 最新包茎治療で強い自分になる！ スコア特選3医院QUESTION	スコア	1998年02月26日	座談会、レクチャー、クリニック紹介	○			○						
109	脱ホーケー宣言 男の自信とポイントの極しぎ信じて切ったヤツが勝つ！ 迷わずムケよ、ムケばわかるさ、Let's GO!	スコア	1998年09月24日	座談会、レクチャー、クリニック紹介										○

仮性包茎手術を正当化する言説の1970-90年代における変容

№	記事タイトル	雑誌	発行人月日	記事種別	同様の目	女性の存在		男性の健康		男性のQOL			包茎増加/多い	極まなく/無理に手術しなくてよい
						女性の声 ／のため の手前	女子に嫌 われる 手前	子宮ガン/ 女性に性病 伝染など	恥垢/不衛 生/臭い	陰茎が正常 に罹患	短小/形状 悪くなる	早漏/インポ 等になる		
110	ボクたち白書'98 キミのおチンチンはズルムケかい？	ホットドッグ・プレス	1998年12月25日	調査										
111	スコラ、コンプレックス解消スベシヤル 脱・ホーケー 皮さえ切ればロワイモノなし！	スコラ	1999年03月25日	雑誌会、レク チャー、リ ニツク紹介		○		○			○			世の中の男 の7割が ホーケー
112	僕らのPenis常識事典 包茎	ホットドッグ・プレス	1999年08月25日	グッズ紹介		○		○						
113	LOVE LOVE WINTER '99 立ち上られホーケーズ	ホットドッグ・プレス	1999年11月25日	レポート、調査				○			○			
114	ぼくたち白書2000 チンチンの悩みは？	ホットドッグ・プレス	1999年12月25日	調査										

よい<sup>3)</sup>。

「女性の存在」……「女性の声」は、形式上、「女性の発言」として表現されている言説、「女の子に嫌われる／のために手術」は、包茎でいると女性に嫌われるといった類の言説である。これらは〈フィクションとしての女性の目〉を構成する要素であるといえる。「子宮ガン／女性に性病伝染など」は、包茎でいると、女性の子宮に恥垢を残すことになり、女性に子宮ガンを発生させてしまうという説や、女性に性病を伝染してしまうという説の紹介を指す。時代を問わず、まんべんなく登場している。

「男性の健康とQOL」……包茎でいると、男性本人の健康または性生活の質にかんしてデメリットが発生すると主張する言説である。「恥垢／不衛生／臭い」は、包茎でいると恥垢がたまりがちで不衛生で臭いといった言説、「陰茎ガン他に罹患」は、包茎でいると恥垢がたまり、陰茎ガンや性感染症などの病気にかかりやすくなるという言説である<sup>4)</sup>。「短小／形状悪になる」、「早漏インポ等になる」は包茎がこれらの症状をもたらすことを主張する言説、「コンプレックスになる」は、包茎でいることに引け目を感じ、内向的になる、「ネクラ」になる、女性にたいして積極的になれないなどの精神面でのデメリットが生じると述べる言説である。これも、時代を問わず、まんべんなく登場している。

「包茎増加／多い」……「近年、包茎が増加している」、「包茎男性は多い」と述べる言説である。多くの言説は具体的な数値を提示しているが、包茎男性の割合が15%から80%と大きな幅があるうえ、「包茎」と呼ばれるものが仮性包茎だけなのか真性包茎も含めたものなのかがはっきりしておらず、調査対象やデータのソースを明かしていないものがほとんどである。包茎が「増加している」と主張する記事も、いつと比べて増加しているのかを示さない。これも、とくに時代による傾向はなく、断続的に登場している。

「悩まなくてよい／無理に手術しなくてよい」……包茎であっても悩む必要はない、または無理に手術をする必要はないと述べる言説である。手術をすすめる記事が圧倒的に多いなかで「カウンター言説」として存在する。ただし、真性包茎については手術がすすめられるパターンが多い。調査対象時期の最初期である1971年から登場している。しばらく間があき、1980年代半ば以降、断続的に登場している。

### 3-2 作業仮説の検討

#### 〈フィクションとしての女性の目〉

本稿の作業仮説は、「時代が下るにつれ、仮性包茎手術を正当化する言説のバリエーションが増える。そのバリエーションの中には、〈フィクションとしての女性の目〉を体現するものが存在する」であった。以下では、この仮説の妥当性の検討結果を述べる。

〈フィクションとしての女性の目〉を体現する言説として、表1における「女の子に嫌われる／のために手術」言説、「女性の声」の形式を伴った発言が該当する。これが青年誌に

仮性包莖手術を正当化する言説の1970-90年代における変容

登場するのは1975年のことである。

〔包莖は〕治るものなら治しておいたほうがいい。／なぜなら、第一に包莖は、SEXの際、パートナーの快感をそぐことが多いからだ（『週刊プレイボーイ』1975年7月1日号、p.128）

特殊な例を除いては、包莖の男性はあまり女性からは歓迎されないようだ。「私の彼って、仮性包莖なのよね。だからセックスは一応ふううにできるんだけど、なんか物足りないんだなァ。ぐーんとこっちを感じさせてくれるものがないのよ」（M・Kさん 21才・デパート勤務）（『週刊プレイボーイ』1975年10月14日号、p.138）

このように、初期の記事では、パートナー女性の性的快感に重点が置かれており、性的快感の付与ができないのが包莖のデメリットとされていた。

しかし、1980年代以降の言説では、「不潔」が挙げられることが多い。包莖だと「不潔」で「臭い」がきついことが女性の口から、あるいは女性と関連させながら語られる。

「たってもむけない人や、皮を引っ張っても亀クンが出ないような“重症”の人でもニャンニャンはできるわ。でも、臭いがあったり、フェーサーだからお医者サンにも相談してね」（『ホット・ドッグ・プレス』1986年1月10日、p.39）

「包莖が臭ってホントだね。大好きな彼と初Hのとき、一生懸命フェラしてあげようと思ったらツーンときてね。頑張れなかったわ」（KYクン 高校3年生）（『ホットドッグ・プレス』1997年8月25日、p.43。名前はイニシャルに変更）

やっぱり臭いはマズイよなあ。女のコはソーローよりも短小よりもコレを一番嫌うもんなあ（『スコラ』1996年2月22日、p.131）

包莖ゆえに恥垢がたまりやすく、その恥垢が性交時に子宮に残ることで女性を子宮ガンにさせる、あるいは女性に性感染症を伝染させるといった言説も見られる（この説には、現在、批判が提出されている。石川2005：121参照）。たとえば、日本のガールズバンドの代表格であるプリンセス・プリンセスが赤坂小町という名前だった頃、「明るく正しく気持ちいい赤坂小町のエッチ相談室」というコーナーでメンバーが以下のような会話を交わしている。

京子「女の人には〔包莖は〕よくないんですよ。オチンチンに細菌が繁殖してさ、性病にかかりやすくなる」

加奈子「そう。たまったカスには発ガン性があるってウワサだもん。マラカスだらけなんてクワえる気もしない、なーんてね（笑）」（『ホット・ドッグ・プレス』1985年3月10日：188）

包莖が女性を「性病」, 「ガン」にさせることが示唆されたうえ, 「マラカス」つまり恥垢ゆえ, 「クワえる」気も起こさせないと批判されている。「クワえる」とはフェラチオのことであろう。さきの女性にたいする性的快感の付与も含め, 包莖を否定する言説では「女性にとってよくない」エピソードが繰り返し語られている。

記事の形式に注目すると, シロウト女性に包莖について論評させる記事において, 彼女たちの顔写真を付すタイプのものが目にとまる。今回, 対象とした資料では1987年から確認できる(『ホットドッグ・プレス』1987年1月10日号, p.34)。「女性の意見」に顔写真をそえるレイアウトは, 包莖の話題にかぎらず『ホットドッグ・プレス』の性や恋愛をめぐる特集全般に見られるものである。いずれにせよ, こうした誌面構成は〈フィクションとしての女性の目〉の「リアリティ」をさらに増幅させるものだっただろう。

#### カウンター言説

作業仮説において, 「時代が下るにつれ, 仮性包莖手術を正当化する言説のバリエーションが増える」と予想した。結論を先取りすると, 言説のバリエーションが増えたのは「仮性包莖手術を正当化する言説」内部ではなく, その外部においてであった。つまり, 「仮性包莖手術を正当化する言説」に対抗する「仮性包莖に手術は不要」とするカウンター言説が, 1980年代半ば以降に登場する(表1の「悩まなくて/無理に手術しなくてよい」に○が記されている記事)。たとえば, セックス・ドクターとして有名な奈良林祥は, 短小・包莖を肯定するという『スコラ』では珍しい記事において, 次のように語っている。

「包莖手術を受ける人は一般にコンプレックスが強い人です。手術後, 形が違うことで今度はまた別のコンプレックスに陥っちゃうんですよ。こういう人は……」[医師・奈良林祥] / 高いお金を払って別のコンプレックスを背負い込むなんて, こんなバカな話はない。女の子だって, 体験すれば, 仮性包莖なら決してSEXに問題ないとわかるようになるはずだ(『スコラ』1987年12月10日, p.162-3)

包莖手術を受ける人を「コンプレックスが強い」として特別視したあと, 「今度は別のコンプレックスに陥る」として, 包莖手術が患者を救済しないことを奈良林は指摘している。さらに記事の地の文が, このことを「高いお金を払ってコンプレックスを背負い込む」愚行として把握し, 「バカな話」という意味づけを与えている。そして, 「体験すれば, 仮性包莖なら決してSEXに問題ないとわかるようになるはず」と「女の子」の視点を持ち出しながら, ほかの雑誌でさんざん喧伝されている「包莖はセックスに問題あり」という説を否定しようとしている。

カウンター言説を展開しているのは, 男性医師や記者(記事の地の文)ばかりではない。彼らよりもいっそう「女性の意見度」が高い発言をする, 看護や性の専門知識を持った女性

タレントや女性ライターも同様に包茎を肯定し、手術を否定している。

〔包茎手術をすべきかという18歳の男性からの質問に〕「必要ありません。セックスはとどこおりなくできるのでしょ？ あとは衛生の問題だけじゃないですか。あなたはオフロにあまり入りたくないから包茎の手術をしよう、などと考えているわけですか。そんなことを思いわずらいつつ、ぐじぐじと自分のものをいじくっているヒマがあったら、せっせと石鹸で磨きなさい。……だいたい包茎が悪いなどと誰が決めたのですか。むきだしの生ものは早く腐るんだ。それに比べボクのは用のないとき、ラップでくるんだ始末のいいモノだけ。これくらいの感覚で堂々と道を歩いてください」〔タレントのナース・シーナ〕（『ポパイ』1988年7月6日，p.177）

「私はキッチンとマメに洗って、ムイで痛くさえないければ手術の必要はない、と思っています。だって手術をしたら今度は“手術をした”という痕（肉体的な）コンプレックスが残るワケですから」〔性カウンセラーの山口みずか〕（『ホットドッグ・プレス』1996年8月25日，p.56）

ナース・シーナも山口みずかも、ペニスを清潔に保ちさえすれば手術の必要がないと述べている。包皮を「ラップ」と表現するナース・シーナの言葉づかいは秀逸だ。オリジナリティにあふれているうえ、包皮のペニス保護機能に着目したうえで、あえて保護膜を切除しようとする行為のムダさを引き立たせる。山口は、手術肯定言説がひた隠しにする「傷痕」について言及しており、奈良林と同様に、包茎手術がまたべつのコンプレックスを産むことを指摘している。同じ〈女性〉であることから、彼女たちの発言は、〈フィクションとしての女性の目〉言説を相対化する機能を他の対抗言説以上に有している。

女性タレントや女性ライターの言葉ほど直截的ではないものの、〈フィクションとしての女性の目〉を相対化するものとして、「女性がいかに包茎について分かっていないか」、その無知ぶりを暴き立てる言説も見逃せない（表1の「女性の声」に「×女性の声の誤り」と記入している言説）。包茎について女性たちが無知であることを明らかにする言説は、「包茎は嫌い」という「〈女性〉の意見」が有する「リアリティ」を掘り崩す機能を持っている。

1993年の『ホットドッグ・プレス』は、シロウト女性たちに包茎のイラストを描かせ、その無知ぶりを品評している。以下の①、②はイラストに付された記号のことである。

女のコはほとんどがホーケイの実態をつかんでいないのだ。①のような形をしているのがホーケイ、せいぜいこの程度の認識なのだ。②の場合は男が最初に「オレホーケイだから」と告白されてからの記憶らしい。正面図はナカナカの射ているが、横からの図はもうズル向け（ママ）状態そのモノである。早い話、前知識にまどわされているだけなのだ（『ホットドッグ・プレス』1993年2月25日，p.81）

シロウト女性にペニスのイラストを描かせる企画は1994年の『ホットドッグ・プレス』でも行われている。こちらは包莖に特化したものではないが、リード文でさかんに女性たちの「無知ぶり」が強調されている。

判明!? 男の身体に関する女のこたちの『大誤解』! / テメエのこは分かるけど異性のこはよく分からん! そりゃ女のこだって同じだ。見ても入れてもしゃぶってみてもイマイチ謎な男の身体。ああ無知なのね無知なのよ。そこで! 男に関する大誤解(主にチンポ問題)を女子の皆さんが大告白。キミの彼女も似たようなモンだぜ!(『ホットドッグ・プレス』1994年8月25日, p.62-3)

女性たちの無知を強調するリード文の隣に「男たちの驚愕証言集」というコーナーがあり、「包莖=童貞とってた彼女」のエピソードが語られている。「ある女のこはボクの仮性包莖を見て「童貞だったの」と言った。童貞じゃないよと答えると、不思議そうな顔で「じゃあこの皮かむりは何?」。彼女、「童貞=包莖」と思ってたんだ。1回やると誰でもムケると言い張っていた!」(YTクン, W大学4年, 23歳。名前はイニシャルに変更)。包莖についていかに女性が理解していないかを印象づける記事になっている。

女性の無知ぶりが指摘されればされるほど、「包莖はキライ」といった〈フィクションとしての女性の目〉の「リアリティ」は掘り崩されていく。つまり、論理的には、『ホットドッグ・プレス』にこの種の言説が掲載されることは、他の号に載っている「包莖手術を肯定する言説」の説得力を減じることになる。女性の無知を強調する記事を掲載することは『ホットドッグ・プレス』にとっては「自殺行為」なのである。しかし、現実には、女性の無知ぶりを強調する記事は数的に多くはなかったため<sup>5)</sup>、「包莖手術を肯定する言説」を駆逐するほどの力を持ちえなかった。

## 4 結論と考察

### 4-1 結論

以上の検討をふまえると、作業仮説「時代が下るにつれ、仮性包莖手術を正当化する言説のバリエーションが増える。そのバリエーションの中には、〈フィクションとしての女性の目〉を体現するものが存在する」は妥当だった部分とそうでなかった部分があったと結論される。

「時代が下るにつれ、仮性包莖手術を正当化する言説のバリエーションが増える」は妥当ではなかった。1971年の登場当時からおおよその言説バリエーションは出そろっており、1999年までほぼ同じ内容で推移する。〈フィクションとしての女性の目〉を体現する言説が存在したことは作業仮説どおりだった。ただ、この手の言説は1975年から登場しており、

「だんだんと増えていくバリエーションの1つとして登場するはず」という予想は当たらなかった。

「バリエーション」の発生は、「仮性包茎手術を正当化する言説の外」で起こっていた。つまり、仮性包茎手術を否定する言説の登場である。仮性包茎手術がそれほど普及していない1970年代初頭の言説は措くとして、手術の宣伝が殷賑をきわめて以降の1980年代、1990年代に、ぼつりぼつりと存在している。だが、それは「ぼつり、ぼつり」の域を出ない。手術は不要とする言説、手術を否定する言説が青年誌においてメインストリームになることは決してなかった。

とするならば、当初の問い「1970年代から1990年代にかけて、仮性包茎手術を正当化する青年向けの言説はどのように変容したか」にはどのように答えられるだろうか。これにたいする答えは「そもそも1970-90年代の仮性包茎手術を正当化する言説に変容などなかった」である。30年もの長きに渡って、仮性包茎手術を正当化する言説は同じストーリーを繰り返している。包茎でいると、女性に嫌われる、臭い、病気になる、ペニスが成長しない、精神的にコンプレックスになる——。これらのストーリーが長きに渡って飽きることなく反復されつづけているのはなぜなのか。そのこと自体が次なる考察の対象となるだろう。

#### 4-2 考察

以上の結果は、先行研究が示した男性学の概念に何を付け加えたことになるのだろうか。第一に、「医療化された男らしさ medicalized masculinities」概念にたいする貢献を考えた。包茎手術の目的は「男らしさ」に彩られている。そして、手術正当化言説の生産者（＝雑誌の編集者や記者）はほとんどが男性である。「医療化された男らしさ」を男性が男性に伝達するさい、〈フィクションとしての女性の目〉が動員されることが分析から明らかになった。敷衍すれば、現代日本社会における「男らしさ」の再生産には〈女性〉の擬態が欠かせないことが分かった。

第二に、〈フィクションとしての女性の目〉概念にたいする貢献である。〈フィクションとしての女性の目〉が「リアルな根拠」のもとに発生する場合がある、ということが本研究では示唆された。須長の分析では「女性はハゲが嫌い」という言説に体现される〈フィクションとしての女性の目〉は、「ハゲは嫌い」といった女性の意見が存在しないにもかかわらず発生する点に特徴があった。たとえていうなら、ハゲ言説における〈フィクションとしての女性の目〉は土台がないにもかかわらず建つ家のようなものである（図6）。

この点をそのまま包茎言説に当てはめることができるかという点、おそらく難しい。というのも、「ハゲは嫌い」という意見と違って、「包茎は嫌い」言説には「土台らしきもの」があるからである。「土台らしきもの」とは「不潔なペニスの男性は嫌い」という意見のことである。この意見は、おそらく実在の女性の多くから支持されるに違いない「リアル」なも



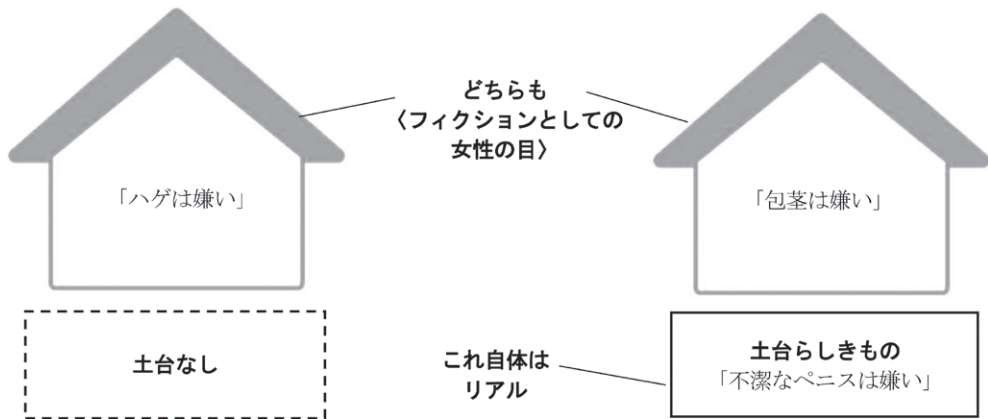


図6 ハゲ言説（須長 1999）と包茎言説における〈フィクションとしての女性の目〉の発生の仕方の違い

ので、「フィクション」といって切って捨てるわけにはいかない。

ただ、「土台」と呼ばず「土台らしきもの」と呼ぶのは、「不潔なペニスは嫌い」は「包茎は嫌い」の根拠に必ずしもなりえないからである。包茎であったとしても常に清潔にしていれば多くの女性は許容すると思われる（じじつ「包茎でも問題ない」とする女性からそのような意見が提出されていた）。「不潔なペニスは嫌い」が「包茎は嫌い」に即結びつくわけではない。

が、包茎言説は、その両者を結びつけた。そこがまさに包茎言説の“レトリック”であり“トリック”である。「包茎は嫌い」の「足場らしきもの」に十分なリアリティがあるために、「包茎は嫌い」という意見は「ハゲは嫌い」という意見以上に否定しがたいリアリティが付与される。このように、詐術的なレトリックによって「足場らしきもの」を伴い、リアリティをまとうタイプの〈フィクションとしての女性の目〉が存在することが本研究では示唆された。

つまり、2つの概念への本研究の貢献を一言で表現すれば、「現代日本社会における「男らしさ」の再生産には、リアリティにみちた〈女性〉の擬態が動員される」ということであり、これが本研究が得られた理論的示唆である。

この理論を包茎をめぐる現実には起きている事象に当てはめてみると何がみえてくるだろうか。いま一度、3-1に引用した高須克弥の証言を見直してみたい。「包茎＝ダサイ」という価値観を「捏造」することで、「男らしく」なるための包茎クリニックに集客することを高須は行った。このことが示すのは、包茎にネガティブな意味づけをし、男性が生きづらい世の中を作っているのは男性である、ということにほかならない。だが、そこで動員されるのはフィクションでありながらもリアリティに満ちた〈女性〉であるため（雑誌の記事で女の口に「包茎の男って不潔で早くてダサイ!」「包茎治さなきゃ、私たちは相手にしない

よ！」って言わせて土壌を作った)), 疑似的に「男性 vs. 女性」の構図が作られる。男性が生きづらい世の中を作っているのは女性であることになり, ほんらいは「男性 vs. 男性」である対立図式が覆い隠される。

現代日本社会で起こっている「男の生きづらさ」というのは, 多かれ少なかれ, このようにして発生しているのではないだろうか。男女間の問題と思われていることは, じつは家父長制下での男性と男性の間の問題であることに, 私たちはもっと注意深くなるべきなのではないだろうか。

今後は, 一方が不利な立場に置かれる男性と男性の間の相互作用において, 〈女性〉の擬態や表象が用いられる事態を概念化し, 「男女問題」を「男男問題」に定義しなおす理論にまで洗練させることを課題としたい。

付記: 本稿は2017年11月4日の第90回日本社会学会大会での発表を原稿化したものである。コメントや意見をくださった皆さんに感謝する。調査にあたっては, 東京経済大学個人研究費を用いた。

#### 注

- 1) Baldness の訳語として「ハゲ」を採用した。いくつかある訳語の候補から「ハゲ」を選んだ理由は, 後述の須長史生『ハゲを生きる』の用語との整合性を確保するためである。
- 2) 「ハゲの人は男性ホルモンが多いのでむしろ男らしい」という言説もあるが, 男性の多くは「男らしい」ことに価値を置きつつもハゲを歓迎していないことを考えあわせると, ハゲを肯定するニュアンスを含んだ「ハゲ=男らしい」言説はあまり支持されていないと思われる。
- 3) 概観するかぎり, 「オジサン雑誌」には「同性の目」エピソードが青年誌よりも高い頻度で登場している。工事現場での一仕事のあとや接待ゴルフで職場の仲間と入浴した時, 同窓生と温泉に行った時などが「同性の目」を気にするシチュエーションとして描かれている。
- 4) なお, 国立アメリカ癌協会は恥垢の発癌性を否定している (Illingworth 1991: 98)。
- 5) 『ホットドッグ・プレス』誌面にうつつらと漂う男尊女卑のトーンと, 女性の無知を嘖う言説はなじみがよい。それにもかかわらず, この類の言説が広まらなかったのは, 女性が持ち合わせていないとされている知がまさに「男性の性的身体」にかんするものであったこととおそらく無縁ではない。「男性の性的身体」にかんする知など女性には持ってほしくないというのが一般的な男性の反応だろう。そんな知識は持っていないにこしたことはなく, したがって, 男性の性的身体について無知な女性をバカにする理由もない, ということになる。

#### 参考文献 ※表1に掲載の雑誌記事以外

- 石川英二, 2005『切ってはいけません! —日本人が知らない包茎の真実』新潮社  
国民生活センター, 2016「美容医療サービスにみる包茎手術の問題点」国民生活センターサイト  
(2017年11月3日取得, [http://www.kokusen.go.jp/pdf/n-20160623\\_2.pdf](http://www.kokusen.go.jp/pdf/n-20160623_2.pdf))

- 澁谷知美, 2015 [2003], 『日本の童貞』 河出書房新社
- 澁谷知美, 2017 「戦前期日本の医学界で仮性包茎カテゴリーは使われていたか——1890-1940年代の実態調査の言説分析」『人文自然科学論集』140号, pp. 59-78
- 須長史生, 1999 『ハゲを生きる——外見と男らしさの社会学』 勁草書房
- 総務省, 2000 「報道資料 平成12年「通信利用動向調査」の結果」総務省サイト (2017年11月3日取得, [http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/statistics/data/010424\\_1.pdf](http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/statistics/data/010424_1.pdf))
- 野方重任, 1968 『男性改造学入門』 佑啓社
- Castro-Vázquez, Genaro, 2015, *Male circumcision in Japan*. Kindle Version, Retrieved from Amazon.com.
- Illingworth, Rokland S., 1991, *The Normal Child: Some Problems of the Early Years and Their Treatment*, 10th edition, Edinburgh: Churchill and Livingstone.
- Loe, Meika, 2006, “The Viagra Blues: Embracing or Resisting the Viagra Body”, Dana Rosenfeld and Christopher A. Faircloth eds, 2006, pp. 21-44.
- Miller, Laura, 2004, “Youth Fashion and Changing Beautification Practices”, Gordon Mathews and Bruce White eds., *Japan's Changing Generations: Are Young People Creating a New Society?*, London: Routledge. (=2010, 小谷敏監訳・川畑博臣訳「若者のファッションと変化する美容行動」『若者は日本を変えるか——世代間断絶の社会学』世界思想社)
- Rosenfeld, Dana and Christopher A. Faircloth eds, 2006, *Medicalized Masculinities*, Philadelphia: Temple University Press.
- Symzak, Julia E. and Sam Regan de Bere, 2006, “Medicalizing the Aging Male Body: Andropause and Baldness”, Dana Rosenfeld and Christopher A. Faircloth eds, 2006, pp. 89-111.
- Vandello, Joseph A. and Jennifer K. Bosson, 2013, “Hard Won and Easily Lost: A Review and Synthesis of Theory and Research on Precarious Manhood”, *Psychology of Men & Masculinity*, 14 (2), pp. 101-13.